

PRIVATE INVESTIGATOR

プライベート・インベスティゲーター

職業柄、顔はお見せできません

～ロバート佐藤さん（仮名）の場合～

どんな仕事？

日本でボディガードをしていた時に、調査員にならないかと誘われたのがこの仕事につくきっかけでした。しかし実際始めてみると、仕事のおもしろさを感じる反面、すぐに限界が見えてしまっていました。というのも、日本では探偵や調査員というライセンスはないのです。社会的立場もはっきりしておらず、警察なども調査に協力的ではない。できることがごく限られている。だったら、アメリカに行こうと思ったわけです。

一方、アメリカでPIができることはたくさんあります。弁護士並みに難しいといわれるテ

ストをパスし、FBIに厳しく身元調査され、指紋を登録されたものだけが持つライセンスなので、危機管理から資産調査、犯罪捜査にまで踏み込めるのです。警察など各機関も協力的ですしね。

具体的には、家族が行方不明、自殺とされたケースに疑いが残る場合、嫌がらせの相手をつきとめるなど、警察は何もしてくれない、だが自分でもどうにもできない、そんな時、お役に立てるのが私たちです。

PIになるには？

PIのライセンス取得には時間と労力が非常にかかります。

というのも、ライセンスを持ったPIの元で3年以上、6000時間以上の経験を積まなければならないからです。もし、犯罪学(Criminal Justice)の学位を持ってれば、これが2年(4000時間)に軽減されます。プラス、州政府が行うテストに合格しなくてはなりません。

私の場合、まずニューヨークのリスクマネジメントの会社で企業調査、危機管理業務に従事した後、犯罪捜査の修士号を取得しました。教授陣はFBIなど現場で活躍した人が多かったので、本場の各種犯罪捜査、諜報技術を学ぶことができました。ラッキーにも、すぐに就職先のPIも見つかりました。

1週間のスケジュール

24時間、週7日間ほとんど休みなしですね。多い時は10ケースほどを抱えていますし、真夜中に日本から電話での依頼もあります。

仕事内容はおおまかに分けて、クライアントとのカウンセリング、調査方法の検討やその計画、他のPIや各機関に協力依頼、実際の聞き込みや尾行、そして調査結果のレポート作成です。違う人物を装って、ターゲットと接触することも度々で、名刺や架空の会社のパンフレットを作成することもあります。

気になる年収は？

アメリカのPIは半分がパートタイムと言われます。元刑事、元FBIの人が多いようです。公表されている平均年収は3万3500ドル。私の年収はご想像におまかせします。ちなみに、PIの料金は1時間75〜100ドルが一般的。これは実際現場に出た時間に加算されるもので、書類作成などの費用は別のレートが適用されます。

やりがいを感じる時は？

保険詐欺など犯罪が絡んだケースを解決に導いた時はやりがいを感じますね。20年前の文



通相手を探して欲しい、恩人に会いたいと言う人の役に立った時も純粹に心からうれしいです。

ライセンスに関するデータ

Bureau of Security and Investigative Services

2420 Del Paso Road, Suite 270
Sacramento, CA 95834
(916) 322-4000
www.dca.ca.gov/bsis/pi

協力: i2Brain, Inc www.i2brain.org